

令和2年度学校関係者評価委員会 議事録

【日時】令和2年7月19日（日）15：40～16：10

【会場】こころ医療福祉専門学校 3階 講堂

【委員】出席：志岐浩二，高比良宏輔，松本修，諸岡辰巳，川崎和幸，谷川幸太

【事務局】出席：藤原善行，小野格，高島恵理子，松下周平

新谷大輔，廣瀬佑，中野仁，近藤和史

【委員】欠席：大木田治夫，有村俊男，清川慎介，石原義大，

(敬称略)

【総評】大きな問題なし。

- 1 学校自己評価の説明（司会 副校長 小野 格）
学校自己評価報告書，学校自己評価結果に係る評価書の説明を行う。
- 2 平成31年度（令和元年度）学校自己評価結果に係る委員の評価書
特に問題なし・・・○
附帯意見あり・・・△

	点検項目	学校関係者評価
1	学校の目標・計画	○
2	教育理念・目標	○
3	学校運営	○
4	教育活動	○
5	学修成果	○
6	学生支援	○
7	教育環境	○
8	学生の受入れ募集	○
9	財務	△
10	法令等の遵守	○
11	社会貢献	○
12	国際交流	○
13	学校評価の総合的結果	○

3 令和元年度学校経営総括（副校長 小野格）

- (1) 教育に関する評価については、学校の意向が学生に伝わってきていると感じている。
- (2) 国家試験合格率については、理学療法科とスポーツ鍼灸科は好結果であったが、スポーツ柔整科と介護福祉課には課題が残った。
- (3) 学生の予習や復習等「自学自習」の姿勢づくりは課題として残った。
- (4) 卒業生の社会的な評価については、卒業生をどう在校生に繋いでいくかについて工夫が必要。
- (5) 就職率はスポーツ柔整科を除いて100%の達成している。
- (6) 県内就職率は77.5%となり前年(82.4%)より減少した。
- (7) 退学者については43名となる。この中には介護福祉科に進学する日本語科留学生が19名含まれる。学科別では、日本語科20名と理学療法科10名とスポーツ柔整科7名で全体の86%となる。
- (8) 今後の対策として、学生の多様化・学力低下が進んでおり、1年次対策が喫緊の課題となっている。
- (9) 学習の習慣化の指導が必要である。

4 委員意見

- (1) 人材バンク運用も行われており、卒業生と今後も密な関係が築けるものと思われる。
- (2) 募集に不安を感じる。
- (3) コロナ禍の中での学校運営について大変だと思うが地域医療・福祉のために検討して欲しい。
- (4) 入学者の減少、ひいては介護職員のなり手不足は全国的な課題といえますが、学校側と実習先の連携を実習期間だけではなく、日頃より行うことができると考えております。
- (5) 国家試験合格率の向上への取り組みを期待している。

4 その他意見交換

(1) 師岡委員

学生募集をすることが難しい時代と感じている。

→高校生の減少など外部環境は著しく悪化している。また、福岡への流出は加速している。広報としては、顕在化しているニーズだけではなく、問題意識のある学生を募集につなげるべくパンフに特集ページを追加するなど変更した。パンフレットを商品説明に終始するものではなく、長崎の医療・福祉を支える岩永学園のビジョンを知るきっかけとして利用し市場の拡大を目指している。その他、学校単体での募集は限界があることも感じている。高校訪問などでも、高校の先生方より、各学科とも職業理解などがもっと進むと良いとの意見も聞いている。これについては先生

方の日常の取り組みが大切と感じている。(小野)

(2) 松本委員

柔道整復師自体が衰退している。学校のためにも柔整師になりたいと思う若者を増やしたい。

(3) 高比良委員

都市部への人口の流出が加速すると同じように、学生だけではなく福祉業界自体も変化している。職員確保に苦心しているところだ。現場で利用者の方と接する介護福祉士の増加は最も重要であると感じている。

→学校自己評価については、学生募集に留まらず、教育環境の整備等も厳しくしている。(小野)

(4) 志岐委員

理学療法業界では、セラピストが増えすぎており職域拡大が必要と考えている。長崎4校ある中で独自性を出すことも重要で、「スポーツ」に特化した教員がおり、選択肢としてメリットがあると思う。